

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (01735012), 法人名 (株式会社システム通信), 事業所名 (グループホーム和みずもと 1Fユニットつくし), 所在地 (室蘭市水元町53-12), 自己評価作成日 (平成27年11月27日), 評価結果市町村受理日 (平成28年2月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意思を大切に一人ひとりに合わせた支援を行っております。自立支援に向け見守りと、ご本人の持っている力の維持に努めております。一人ひとりの利用者様の生活のペースや、好みに配慮して支援させていただいております。豊かな四季を感じられるよう果物狩り、紅葉狩り等の外出の機会を定期的に行っております。又、スタッフの年齢層が幅広く、本当のご家族のように(孫、娘、嫁のように)触れあい会話を楽しんでいただける穏やかなホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173501297-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年12月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市郊外の自然豊かな山間の高台にあり、室蘭工業大学や高校が隣接する文教地区に立地している。鉄筋コンクリートの2階建て、2ユニットの事業所である。事業所は利用者が生活しやすいように至る所に工夫がみられる。ハード面では、広いリビングと食堂には大きな窓があり、周囲の山々の四季の移ろいを感じることが出来る。居室全室が南向きで陽射しが入り明るく、収納用のクローゼットがあり整頓され、利用者は動線が確保しやすい。広々長い廊下は、リハビリを兼ね歩行運動に効果を上げている。中間部に談話室があり、利用者同士のおしゃべりやカラオケ、家族の訪問時など自由に寛げるスペースとなっている。ソフト面では、事業所は町内会に加入し積極的に行事に参加し、祭典ではおでんや焼き鳥の出店をしたり、認知症の講座を開催し認知症の知識の普及に努めている。また、踊り・手芸・民謡・生活支援など地域のボランティアの協力が有り、地域交流が盛んである。家族には毎月写真入りで利用者の近況を報告する個人別のお便りを送付している。利用者が昔からなじみの港の文学館、海釣り、カレーラーメン屋など外出支援に力を入れ「本人の意思を大切に、出来る限りの力を発揮し、穏やかで安心できる日々を送れるように」と一人ひとりの思いや意向を汲み取り支援する事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、毎日理念を唱和し日々実践に繋がっている。全スタッフに理念をどのように理解しているかアンケートを実施し、その内容を会議で共有した。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、事業所独自の介護理念をつくり、玄関や事務所に掲示している。毎日の朝礼や会議に都度、全職員で唱和し理念の共有を図り、ケアプランなどに表し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事参加を行っている。祭典への出店、文化祭への出品物等を積極的に行い地域との交流の機会を作っている。	町内会に加入し、町内会の行事には積極的に参加している。地域のお祭りには、おでんや焼き鳥のお店をだし喜ばれている。地域住民の踊りや民謡、生活支援のボランティア、大学生の草刈・除雪ボランティアなど交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事等に参加することによりホームの姿勢を見ていただき、またいつでも見学出来るようになっていく。認知症介護・支援方法を地域の中で活かす努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、ホームで行う運営推進会議で、ご家族のお話をお聞きし、ご希望、ご要望にお応え出来るよう努めている。	地域包括支援センター職員、高齢福祉課職員、家族、法人代表、職員が出席し、年6回定期的に開催されている。利用者の様子、事業所の活動報告、事故報告、行事予定など話し合わせ、事業所のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム運営及び入居者様のケアサービス等、介護保険及び保護課と連絡を密にし協力関係を築いている。	グループホーム管理者連絡会に参加し、同業者と情報交換をし行政方針の理解に努めている。生活保護の受給者が数名入居して、保護課と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない状態を目指し心身の機能を正確にアセスメントし身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追求する。利用者様の行動の原因を追究しそれに対応する支援を行っている。	「身体拘束防止マニュアル」を整備している。内部・外部研修や学習会に参加し、受講後、伝達講習を行い、職員間で認識の共有を図っている。言葉による抑制については職員同士でお互い注意し合っている。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年社外研修を受講し、社内で研修内容を共有し虐待防止に努めている。介護従事者の心身の状態を配慮し勤務シフトを作るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に備えて、研修等で制度の内容を学習し、社内で共有している。以前、後継人制度の活用支援を行ったことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、入居契約書に添い説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築き意見、要望を言いやすい関係作りに努めている。苦情・要望等ご意見をいただけるよう玄関に意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置したり、家族の来訪時に話しやすい雰囲気になるように心がけ、家族の要望や意見を引き出しやすいように工夫している。敬老会の行事で家族の茶話会を設け、家族同士の交流に努めている。毎月一人ひとり個別の写真付きのお便りを家族に発送し、利用者の様子を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、主任会議で職員の意見、提案を聞いている。ホーム内に改善提案箱を設置しスタッフが提案しやすい環境作りに努めている。	目安箱(改善提案箱)を設置して、職員が意見や提案を述べやすい体制を整えている。日頃から、ユニット会議や日々の申し送り時に、職員から意見や提案が出て、検討しケアの実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心をもって働けるよう就業規則、給与規定の見直しを実施し、職場環境の整備、労働条件の改善、向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社年数、経験年数に応じた研修への参加を推奨、スキルアップの支援を行っている。研修受講後、社内会議で内容を共有し事業所全体のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会参加、室蘭ケアマネージャーの会参加、他ホーム見学、実習の参加等にて交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、センター方式の報告書を作成し、ご利用者様の意見を尊重して行動制限を控え不安定な心理状態を理解して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築けるよう努力し、様々な要望を話していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様に合った支援の見極めをし自尊心に配慮しながらの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族のように支える」理念に沿った支援をしている。信頼関係を築けるようコミュニケーションを密にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誠意を持って、いつも笑顔で穏やかに対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	結婚式、クラス会の出席や、馴染みの美容室へ行く等、可能な限り関係が継続出来るよう努めている。友人、知人の来訪時ゆっくり話が出来環境づくりを行っている。	墓参り、孫の結婚式、クラス会などの出席やなじみの美容室や買い物には、出来る限り職員が付き添い同行支援をしている。地元出身者が多く家族や知人の訪問時には、居室や談話室でゆったりと寛げるような環境にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ同士情報を交換し利用者同士の関係を把握し、その時々合った支援で皆が関わり合えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入居者様の家族、ソーシャルワーカーと連絡を取り入居者様との接点を持ち相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活を超えない範囲で希望意向の把握をし、その人らしい生活を続けられるよう支援している。	会話の出来る利用者は日頃から意図的に会話の中から聞きだし、困難な場合はしぐさや家族から情報を聞き、利用者の生活を見つめて職員間で検討している。以前勤めていた文学館やなじみのラーメン屋、海釣りなど個々の希望に合わせた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を頂き、その方の過去の人生を大切にしながら安心できる環境作りを努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等、職員との情報交換の共有を図り、ケアの統一化に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施状況確認、家族、スタッフとの意見交換をし援助目標の達成を見極め介護計画を作成している。	担当職員を中心に利用者、家族の希望を取り入れ、月1回のユニット会議で看護師や医療関係者の助言を含め職員で検討している。利用者の毎日の生活記録や体調記録に記入し、モニタリングをしながら、ユニット会議で検討し、介護計画は6か月に1度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、体調記録、申し送りノートを活用しスタッフ同士で情報共有しながら実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに柔軟に対応している。クラス会参加、孫の結婚式参加等ご家族と相談を重ね支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事の参加、ボランティアの方々の定期訪問による生活支援、年数回、踊り、手品、民謡、楽器演奏等開催を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院医師の訪問診療がある。また現状に合わせた医療期間を受診できるように、付き添いや通院の支援をしている。	月2回協力病院医師による訪問診療、体調不良時は随時往診を受けている。入居前のかかりつけ医や病状に合わせた医療機関には通院支援をしている。受診前後には家族に報告している。看護師が常勤し、健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡、報告、相談をしアドバイスや適切な処置方法を随時受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー・医師・看護師・ケアマネジャー・家族と連絡を密にし情報を共有している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書において重度化の指針、重度化及び看取りの説明を行っている。また協力病院、家族・スタッフで情報を共有し共に考え協力しながら支援に取り組んでいる。	入居時「重度化した場合における対応に係る指針」により、本人及び家族に説明し同意を得ている。職員は、ターミナルケアや看取りの研修に参加し、内部研修も行っている。今後、本人や家族の希望を重視して、チームで支援に取り組むためにケア方針をまとめる方向にある。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定期的に確認を行っている。消防主催の救急救命講習会にスタッフ全員参加。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、訓練後、振り返りを行っている。地域へ協力依頼の声がけを行っている。	消防署の指導の下、年2回日中・夜間を想定して火災避難訓練を実施している。訓練後は推進会議に報告している。町内会との協力体制が出来ていて、地域住民も参加してくれる。非常用の備蓄も確保している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心に配慮した声かけ、肯定的・受容的な対応を行っている。	利用者本人の誇りやプライバシーを大切に、傷つけることがないような言葉かけや対応に職員同士注意し合っている。書類は事務所に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定を出来るよう声かけ工夫を行っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日常スタイルを把握したうえで本人の負担にならない支援を行っている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好みの服を選んでいただいたり、訪問美容師、馴染みの美容室への外出等、ご希望にお応えできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、盛り付け、後片付けを手伝って頂き、入居者様とスタッフは同じ食卓につき食事を共にしている。また誕生日には利用者様希望のメニューを提供している。	食材は地域の商店から購入し、利用者の好みに合わせ栄養士と調理師が献立を作成している。職員と利用者とともに、準備や調理、後片付けを会話をしながら行い、和やかに食事をしている。外食は、天丼やカレーラーメン、行事食や誕生会はお寿司やケーキ、天丼など利用者の好みや要望に合わせているようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師と連携し毎日の食事、水分摂取量、体重・排便チェック表を作成し嚥下状態、体重の変化等に合わせた刻み食、とろみ食等工夫考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れ、うがい、歯磨き等、本人の力に応じた声かけをし、口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り日中帯のリハビリ脱を目指している。自発的にトイレに行かない入居者様には自尊心に配慮した声かけを行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。出来るだけ布パンツの着用、トイレの使用を目指して適切な声掛けや誘導支援を行っている。入所時、リハビリパンツやパット使用から日中は全員布パンツに替わるなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便情報を細かく記録し、個々に応じて対応している。野菜、食物繊維、水分を多く摂取していただいたり、軽度な体操を取り入れる等、出来る限り薬を服用せずに排便を促すよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか好きな時間帯での入浴は難しいが、本人の判断にゆだね清潔の保持に努めている。	体調やタイミングに合わせて利用者の希望にそって、週2回以上の午後の時間帯で入浴支援を行っている。入浴拒否がある場合には、時間帯や職員を替えて声掛けしたり、温泉施設の家族風呂を利用するなど、工夫をしながら個々にそって支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ、昼寝をし過ぎないように努めている。精神的ストレスや身体の痛み、痛み、冷えなどを取り除き安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院・薬局と協力し、服薬情報を活用し用法を把握、また服薬前に、2度確認を行い誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の過去の得意分野を活かし、ホーム内での実践できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望した馴染みのラーメン屋、各展示会見学、港の文学館等、希望に沿えるよう外出の支援に努めている。果物狩りや紅葉狩り等外出する機会を多く設けている。	一人ひとりの利用者の希望や様子に合わせて、近隣の散歩や庭の花畑や菜園で作業をしたり、テラスで外気浴をしている。外出では、馴染みのラーメン屋、展示会、みなとの文学館など希望に添える支援をしている。行事では果物狩りや紅葉狩り、お花見などユニットごとに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のもと、ご本人より希望があった場合、お金を所持していただいている。お金を使えるような支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人との連絡を取り次いだり、年賀状・手紙・電話等連絡が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の配置を工夫し危険回避に努めている。テレビの音量調整、日差しや照明の配慮、季節を感じられるよう装飾の工夫を行っている。パネルヒーター、空気清浄機、加湿器を使用し一定環境の整備に努めている。	居室の対面に玄関・居間・食堂・談話室・浴室・トイレ・スタッフルームなどが並び、中央に廊下がありゆったりとした造りになっている。広く長い直線の廊下は、歩行運動ができ、リハビリ効果をあげている。廊下には、利用者の作品の習字・手芸と、地域の方から頂いた室蘭の写真などが飾られている。テラスには椅子やテーブルが置かれ、日光浴やお茶会ができ、菜園で野菜を収穫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室でカラオケ、世間話、廊下のベンチで過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し馴染みの物を持参していただく(写真・ダンス・琴・仏壇等)	居室は全室南側で、窓から明るい陽射しが入り暖かい。収納用のクローゼットが設置され、室内は整頓されている。家から使い慣れた家具やなじみのものを持ち込み、家族の写真や装飾物も飾られ、それぞれ自分らしく寛げるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺、居室前の表札、トイレの案内等環境整備に努めている。		